

令和 2 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立北津守小学校協議会

1 総括についての評価

本年度の学校の自己評価結果は妥当である。

- 【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】については、「学校は保護者の意見や願いを積極的に受け止めて教育活動を進めている」の項目については、子どもたちや保護者に対し寄り添いながら丁寧に関わってきたこともあり目標を達成することができた。しかし、「学校のきまり・規則を守っていますか」や「自分にはよいところがあると思いますか」の項目においては、中期目標を達成することができなかった。本校における最も喫緊の課題の一つである子どもたちの自尊感情の低さが要因であると分析できる。この数年で少しずつではあるが、向上は認められるものの、未だ十分とは言えない。今後も家庭や地域とも連携しながら、取り組んでいくという方針について報告、承認を受ける。
- 【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】については、学年・教科によりばらつきはあるものの、学力面においては依然として大きな課題があり、中期目標は達成できなかった。学習で習得したことを日常生活で活用できる力の育成に向けて、目的意識をしっかりともった学習活動を保障していく。また、子どもたちどうしの「学び合い」を取り入れた授業改善を行うことで学力向上をめざしていく。体力面においては、感染症等予防に伴う休校等もあり例年のような活動が困難であった。冬季期間において、体力アップ月間を設け、ドッジボール週間やなわとび運動週間に身体を動かす機会を取り入れることで体力向上をねらった。今後も感染症等対策を講じながら、より充実した教育活動を展開することで、子どもたちの学力・体力の向上を図っていくことを報告、承認を受ける。

2 年度目標ごとの評価

年度目標：【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

〔全市共通目標〕

- ① 令和 2 年度の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95% 以上にする。(98%)
- ② 令和 2 年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を 80% 以上にする。(77%)
- ③ 令和 2 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。(0 件)
- ④ 令和 2 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。(2 件)

〔学校園の年度目標〕

- ① 令和2年度の大阪市学力経年調査（3～6年生）や校内調査（1～2年生）における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を70%以上にする。（67%）
- ② 令和2年度の、保護者対象の学校教育アンケートにおける「学校は、保護者の意見や願いを積極的に受け止めて、教育活動を進めている。」や「子どもの話をよく聞き、相談に適切に応じてくれる」の項目についての項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える保護者の割合を90%以上にする。（95%）

〔全市共通目標〕及び〔学校園の年度目標〕の達成状況の評価は妥当である。

「学校教育アンケート」や「児童アンケート」を分析した結果、すべての年度目標に達成したとは言えないが、いくつかの項目において、目標に迫ることはできた。自尊感情の高揚に向けて依然として大きな課題は残るが、現状の課題を明らかにするだけでなく、その課題解決に向けて本校教育において大切にしてきた人権教育を基軸に子ども、保護者に寄り添いながら丁寧に関わっていくことや本校独自の「北津守小学校 みんなの笑顔・安心ルール」を活用して目標とする具体的な手本を示しながら教育活動を推進していくことを報告、承認を受ける。

年度目標：【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

〔全市共通目標・学校園の年度目標〕

- ① 令和2年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、前年度より向上させる。
- ② 令和2年度の小学校学力経年調査における正答率7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より5ポイント減少させる。
- ③ 令和2年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より5ポイント増加させる。
- ④ 令和2年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。
- ⑤ 令和2年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である長座体前屈と立ち幅跳びの記録を、前年度より向上させる。

〔全市共通目標・学校園の年度目標〕の達成状況の評価は妥当である。

「全国学力・学習状況調査」「小学校学力経年調査」の結果が明らかになっていないため、年間に2回実施、児童と保護者に「学校アンケート」の結果をもとに、本校の現状と課題について報告する。また、同様に「全国体力・運動能力調査」の結果についても明らかでないため、校内での取組の分析結果を報告、承認を受ける。

3 今後の学校運営についての意見

本年度においては第1回、第2回の学校協議会が実施できず、資料での報告とアンケート形式での承認となつたが、一堂に会して実施することができた第3回学校協議会を含め全3回の協議会を通して本校教育活動の推進に協力的な意見をたくさん頂き、今年度の承認、および次年度に向けての協力と賛同を得ることができた。